

# あいち農産物生産流通レポート

2026年2月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ 農林水産物の輸出拡大に向けた本県の取組状況	(食育消費流通課) 1
・ 愛知県農業総合試験場2025年の10大成果	(農業総合試験場) 2
◎ 地域トピックス	
・ JA西三河が野菜果樹総合集出荷施設を新設します	(西三河農林水産事務所) 4
◎ 東京レポート	
・ 大田市場で洋菜類の品質検討会が開催されました	(東京事務所) 5
◎ 東京都中央卸売市場における2月の主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所) 6
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	(食育消費流通課) 9

## 内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

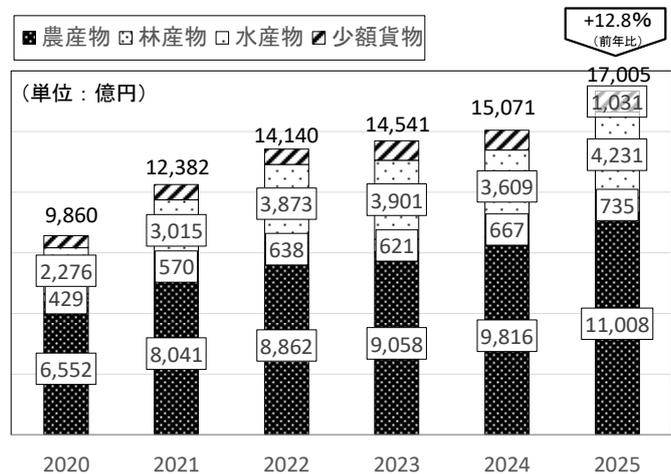
(03)-5492-5400

### 1 国の輸出方針と本県の現状

国は、2025年4月に策定した「食料・農業・農村基本計画」において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする目標を掲げています。

本県では、茶や加工食品の輸出は進んでいます。青果物については依然としてテスト輸出の段階にあります。

こうした状況を踏まえ、本県では産地と連携し、海外の日系店舗でのプロモーションを通じて現地ニーズの把握や輸送課題の抽出を行うなど、輸出拡大に向けた実践的な取組を進めています。



農林水産物・食品の輸出額の推移 (全国)

### 2 輸出推進体制の構築

今年度に、JA、関係市町、輸出商社、産地などで構成する「輸出推進会議」を設置しました。この会議では、海外の需要動向や植物検疫制度などを共有し、関係機関が一体となって農産物の輸出拡大に向けた連携体制の整備を進めています。

### 3 海外の日系店舗でのプロモーションの実施

昨年度に続き、海外バイヤーを産地に招いて生産現場の視察や農業者とのマッチングを行い、商品への理解を深めていただきました。

その上で、これらの商品を香港やシンガポールなどの日系店舗において、試食提供とSNSによる周知を組み合わせたプロモーションを行い、現地消費者のニーズ把握と県産農産物の認知度向上に取り組みました。特に、アジアで需要が高まっている赤肉メロンや使い切りサイズで扱いやすい小玉キャベツやミニ白菜、そのまま食べられるミニトマトなどは好評で、今後の輸出拡大に向けた手応えを得ています。



実施状況 (左: SNS 投稿、右: 店内)

### 4 オンラインツールの活用による販路開拓の支援

輸出意向のある食品事業者には、海外バイヤーとのオンライン商談の機会を提供し、商品 PR やプレゼン方法などの輸出に必要なスキル習得を支援しています。今年度は商談経験が少ない事業者を中心とした 11 事業者を対象に、円滑な商談に向けた事前研修会を実施し、アジアや北米など海外バイヤーとのオンライン商談会の機会を提供しました。

## 愛知県農業総合試験場 2025 年の 10 大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2025 年の 10 大成果として公表しましたので紹介します。

### 1 2025 年の 10 大成果

第 1 位	丸ごと甘い！イチジク新品種「愛知イチジク 1 号」を開発！ －黄緑色で皮ごと食べられる新品種を開発－
第 2 位	極上品質！受精卵から復活した奇跡の紅い豚！ －デュロック種系統豚「アイリス D 2 (ディーツー)」を開発－
第 3 位	トマトの茎を 2 回潰して収益 UP！ －高温環境下でのトマト裂果対策技術の開発－
第 4 位	恋する牛を鳴き声でキャッチ！ －牛の発情個体検知 AI システムの開発－
第 5 位	イチゴ「愛きらり®」の品種特性を生かした新作型をご提案します！ －局所温度制御により収穫開始時期の前倒しを実現－
第 6 位	露地小ギク、3 色揃って 8 月旧盆にきっちり咲かせます！ －8 月旧盆に出荷できる露地小ギク品種の選定及び電照栽培技術を確立－
第 7 位	イネの防除はこれでイイネ！ －イネカメムシの効果的な防除体系を確立－
第 8 位	有袋「瑞月(ブランド名：あいみずき)」の収穫時期を簡単に見極め！ －有袋「瑞月」用カラーチャートを作成－
第 9 位	小麦作の窒素化学肥料を 25%削減！ －鶏ふんを利用した減化学肥料栽培技術の開発－
第 10 位	環境 DNA でため池に生息する魚種がわかる！ －農業用ため池における環境 DNA 分析によるモニタリング法の開発－

### 2 選定委員

あさかわ すずむ  
浅川 晋

名古屋大学大学院生命農学研究科 教授

いのうえ たかし  
井上 孝司

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社  
研究開発本部基盤研究所 主席研究員

さかぐち ちなつ  
坂口 千夏

中日新聞社 編集局生活部 部長

よしだ のりこ  
吉田 典子

愛知消費者協会 会長

(以上、敬称略・五十音順)

ばん みつあき  
伴 充晃

愛知県農業総合試験場 場長

### 3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の4項目について5段階で評価して10課題を選定しました。2025年の10大成果として選出された課題は、育種2・栽培管理4・IT関連1・病虫害防除1・環境対応2と多岐にわたっており、いずれの成果も今日的な問題解決に資するものです。今回は上位3課題を紹介します。

第1位：イチジクの新品種「愛知イチジク1号」を開発しました。本県のイチジク栽培は「柘井ドーフィン」を主体とした品種構成ですが、イチジクの消費と生産の拡大のため、これまでにない形質を持つ品種育成に取り組みました。新品種は、果皮色が黄緑色で、甘味が強く、皮ごと食べることができるという消費トレンドに合致した形質を持っています。

第2位：デュロック種新系統「アイリスD2」を開発しました。新系統は、ロース肉が大きく、発育性に優れ、背脂肪が適度な厚さであり、枝肉格付け（極上～並）の向上や養豚農家の経営安定が期待できます。育種中の豚熱発生で全ての豚を失いましたが、受精卵から再生して完成につなげました。

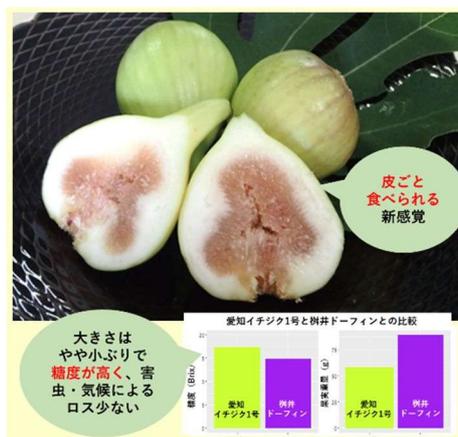
第3位：高温環境下でのトマト裂果対策技術を開発しました。トマトは、9～10月は産地の切り替わりで品薄となり、単価が上昇します。しかし、この時期はまだ暑く、実が割れてしまう「裂果」が多発し、収益悪化の一因となっています。本技術は、実のついている茎を2回ペンチで潰すことにより裂果発生率を1/7に減少させ、収益を47万円/10a向上させることができました。

### 4 公表

農業総合試験場の Web ページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/10daiseika-site.html>) で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

#### 第1位

丸ごと甘い！イチジク新品種  
「愛知イチジク1号」を開発！  
—黄緑色で皮ごと食べられる新品種を開発—



#### 第3位

トマトの茎を  
2回潰して収益UP！  
—高温環境下でのトマト  
裂果対策技術の開発—



#### 第2位

極上品質！受精卵から  
復活した奇跡の紅い豚！  
—デュロック種系統豚  
「アイリスD2 (ディーツー)」  
を開発—



西三河農林水産事務所

JA 西三河管内に点在する4か所の集出荷施設を1か所に集約し、販売力の強化や物流の効率化を図る計画が、令和7年度の農林水産省の「新基本計画実装・農業構造転換支援事業」に採択されました。本計画では、イチゴ・キュウリ・トマト・ミニトマト・ナス・イチジク・梨の7品目を対象とした新たな集出荷施設を整備し、持続可能な農業インフラの構築を目指します。

## 1 計画の概要

事業は3か年かけて進められ、令和10年3月までに約12,000㎡規模の集出荷施設を新設します。施設内には、イチゴのスマート選果システム（※）をはじめ、各種選果機・包装機・保冷庫などを導入します。今年度は、新施設の建設予定地に隣接する、これまで事務所であった施設を青果物のパッキングセンターとして改修する工事を実施しており、2月末の完成を予定しています。

JA 西三河では、これまでもスマート農業技術を積極的に導入しており、新施設においても出荷量予測や選果・包装・物流工程の効率化のため同技術を活用し、先進的で効率的な施設運営を図ります。

※ 画像処理技術を用い、選果レーンに流れてきたイチゴの大きさや形などを認識し、それに応じて最適な組合せとなるようAIが指示することにより、不慣れな人でも効率的なパック詰めが可能となります。また、システムで得られた果実データと圃場のデータ、天気予報から、産地の出荷量予測に活用することもできます。

## 2 期待される効果

施設の集約により、複数品目を一か所で集荷・選果・出荷できるようになり、雇用労働力の有効活用と物流の効率化が期待されます。

さらに、高効率で柔軟な選果・パッキングシステムの導入によって、高付加価値商品の開発や、消費者ニーズに応じた新商品の提案が可能となります。これにより、西尾市産青果物の魅力が一層高まり、契約取引の拡大などを通じて農家所得の向上が期待されます。

加えて、総合集出荷施設の周辺には、図に示すとおり、カントリーエレベーターと花き集出荷場、憩の農園（地産地消メニューが充実した飲食エリアと産直施設）が立地しており、地域の農業を発信する拠点としての役割を果たすことが見込まれます。



改修工事中の建物

手前が新集出荷施設の建設予定地

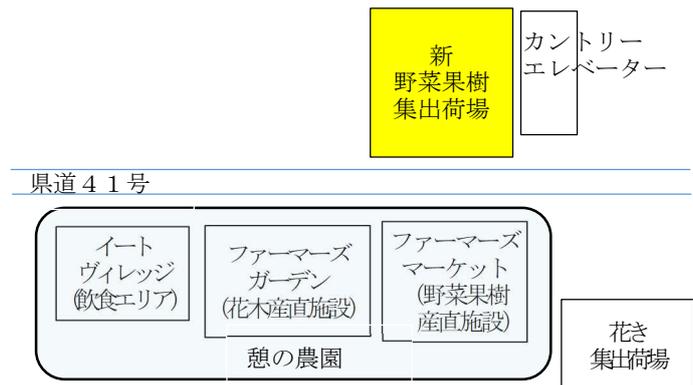


図 新集出荷場の周辺施設

## 大田市場で洋菜類の品質検討会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場の卸売会社で構成される京浜市場愛知県野菜連絡会の洋菜研究会が、2026年1月27日(火)に大田市場で洋菜類の品質検討会を開催しました。

### 1 品質検討会の概要

同研究会は毎年、洋菜類の出荷シーズンである1月～2月に、品質向上を目的として品質検討会を開催しています。

品質検討会には、会員8社に加え、産地のJA担当者と生産者部会の代表者も参加しました。会員の各品目担当者が審査員となり、下表6品目の主要産地からの入荷物について、品質評価(株の揃い、形状、色沢、ボリューム感など)を5段階で採点することに加え、病虫害の有無などの確認が行われました。



品質検討の様子

### 2 品質検討結果及び産地情勢

各品目とも全体的に品質が良く、市場流通においてクレーム対応が必要となるものではありませんでした。審査員からは産地に一層の品質管理を徹底してもらうために下表の評価が出されました。出席したJA担当者が生産者部会内で情報共有を図ることとしました。

品質検討後には、出荷産地のJA担当者から産地情勢が報告され、どの品目も生育に大きな問題はなく、現状では出荷量は例年どおりに推移しているとのことでした。

なお、ブロッコリーとカリフラワーの出荷量は、低温と乾燥の影響により1月下旬から2月上旬にかけて減少する見込みが示されました。

#### 品質検討結果

品目	産地とサンプル数	評価結果
ブロッコリー	愛知2、埼玉1、香川1、長崎1、熊本1	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知は株の大きさや形状、着色が良く、品質が安定していた。</li> <li>株の大きさの不揃い、形状の不揃い、着色が薄いもの、外葉が多いものが散見された。</li> </ul>
カリフラワー	愛知2、静岡1、埼玉1、神奈川1、福岡1	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質に問題はないが、全般的に黄色い花蕾が目立った。</li> <li>一部で下位等級株の混入、量目不足、シミ、土の付着がみられた。</li> </ul>
セルリー	愛知1、静岡1、茨城1、福岡1	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知は歩留まり、他は株のボリューム感が良かった。</li> <li>株のボリュームがありすぎると歩留まりが悪くなるので、収穫遅れのないように注意が必要である。</li> </ul>
レタス	静岡3、茨城1、栃木1、兵庫1、香川1	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの産地も切り口が赤くなっておらず良かった。</li> <li>外葉の変色と収穫遅れが散見された。また、一部で形状の乱れとチップバーンがみられた。</li> </ul>
サニーレタス	愛知2、静岡2、千葉1、福岡1	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉は着色バランスと外葉が綺麗で一番良かった。愛知は品質に問題はないが大きい株が目立った。</li> <li>一部で株の大きさの不揃い、着色が少し薄いもの、乾燥による外葉の傷みがみられた。</li> </ul>
グリーンリーフレタス	愛知2、静岡1、茨城1、福岡1	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知は株の大きさの揃いが良かった。</li> <li>一部で着色が少し薄いもの、乾燥による外葉の傷みがみられた。</li> </ul>

本県産の市場評価は高いため、今後の出荷量の増加に向けて、より一層の品質管理を徹底していくことが重要となります。

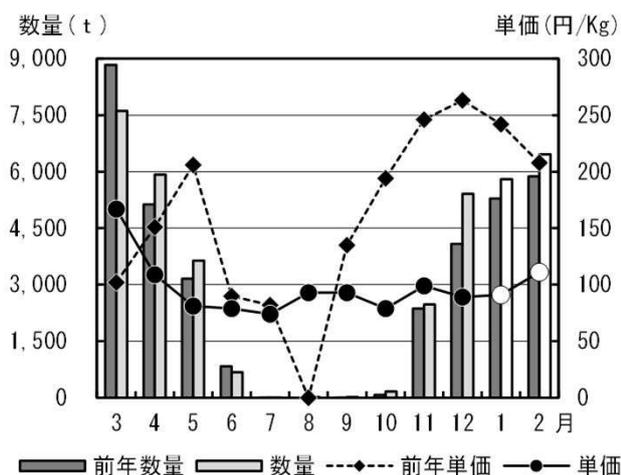
# 東京都中央卸売市場における2月の主要な愛知産青果物の動向

## 1 2月の見通し

品目名 キャベツ

区分		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績等						
実績	2021年	16,795	63	愛知	53%	最も重要なのは顧客の確保である。京浜市場近郊の競合産地で、作付面積増加の動きがあり、加工業務用も含めて競争が激しくなることが予想される。多くの顧客に愛知を指名買いされるように、市場と一緒に愛知のブランド力向上に取り組んでいただきたい。
	2022年	15,019	101	千葉	31%	
	2023年	14,417	95	神奈川	12%	
	2024年	14,186	82			
	2025年	11,165	196			
5ヵ年平均		14,316	107			
2026年見通し		12,000	105			

### 愛知産の動き

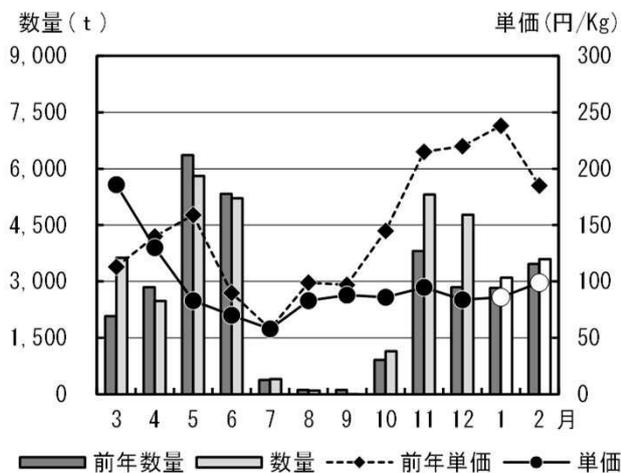


### 産地概況

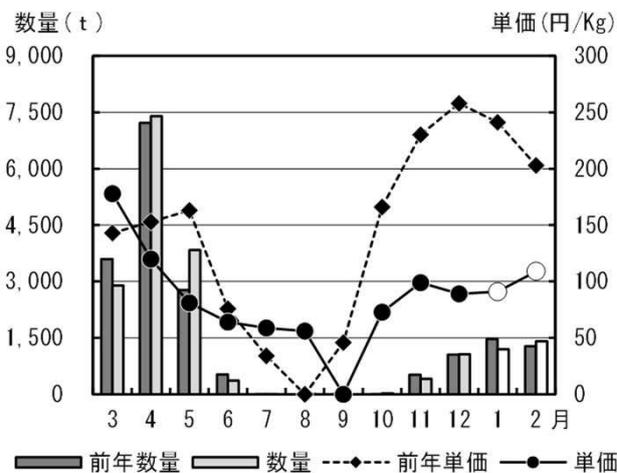
本県は、生育は順調に推移しており、入荷量は少なかった前年をかなり上回ると見込まれる。上旬は、低温と乾燥傾向のため生育は鈍ると見込まれるが、切れ間のない順調な入荷が見込まれる。

千葉は、生育が平年より若干前進傾向となっているため、入荷量は中下旬から漸減するものの、総量は少なかった前年をやや上回ると見込まれる。神奈川は、年内の生育遅れが年末の降雨で回復し、生育が順調に推移しており、入荷量は少なかった前年をかなり上回ると見込まれる。

### 競合産地の動き（千葉）



### 競合産地の動き（神奈川）



## 2 入荷量・価格の動き

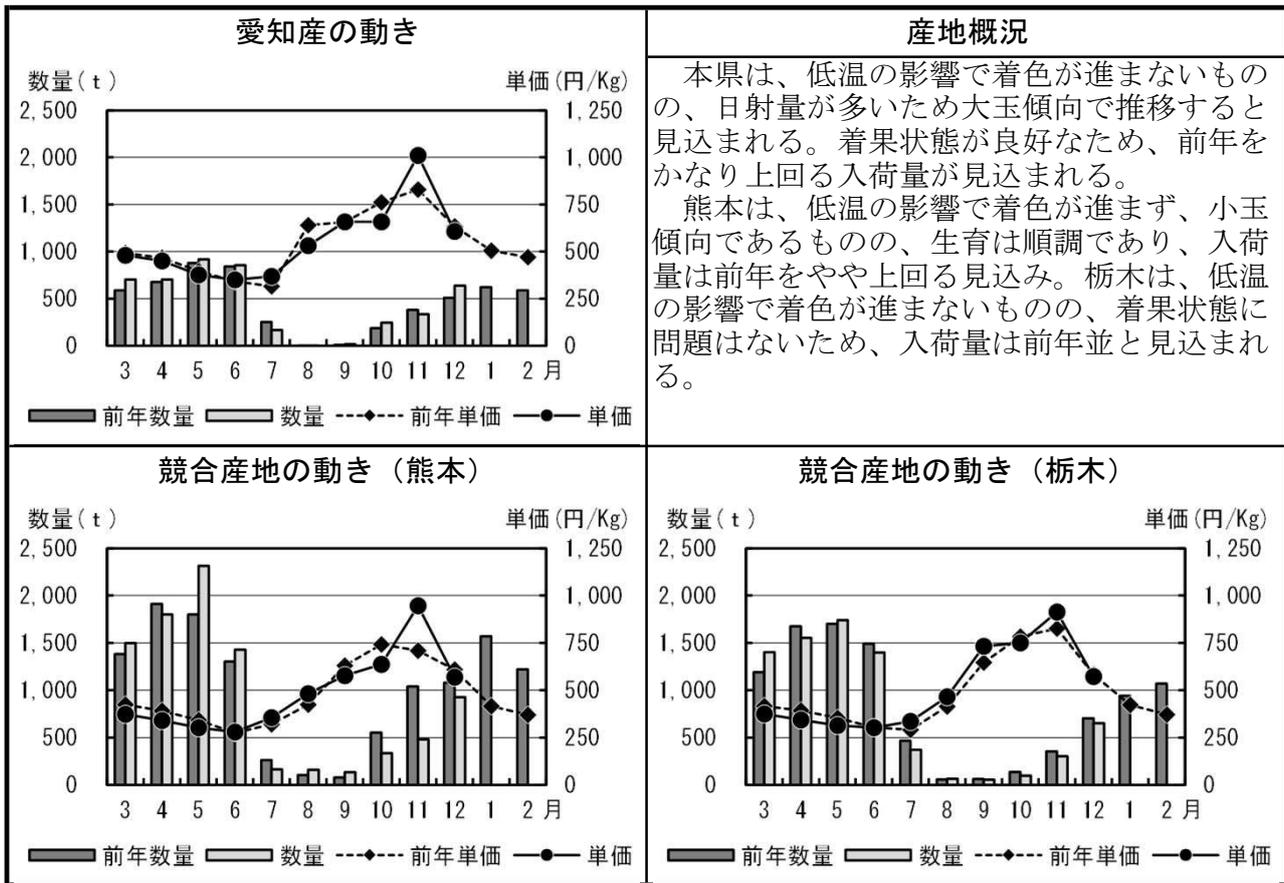
品目名 トマト

前年上位3産地 (%)

熊本 29%

栃木 26%

愛知 14%



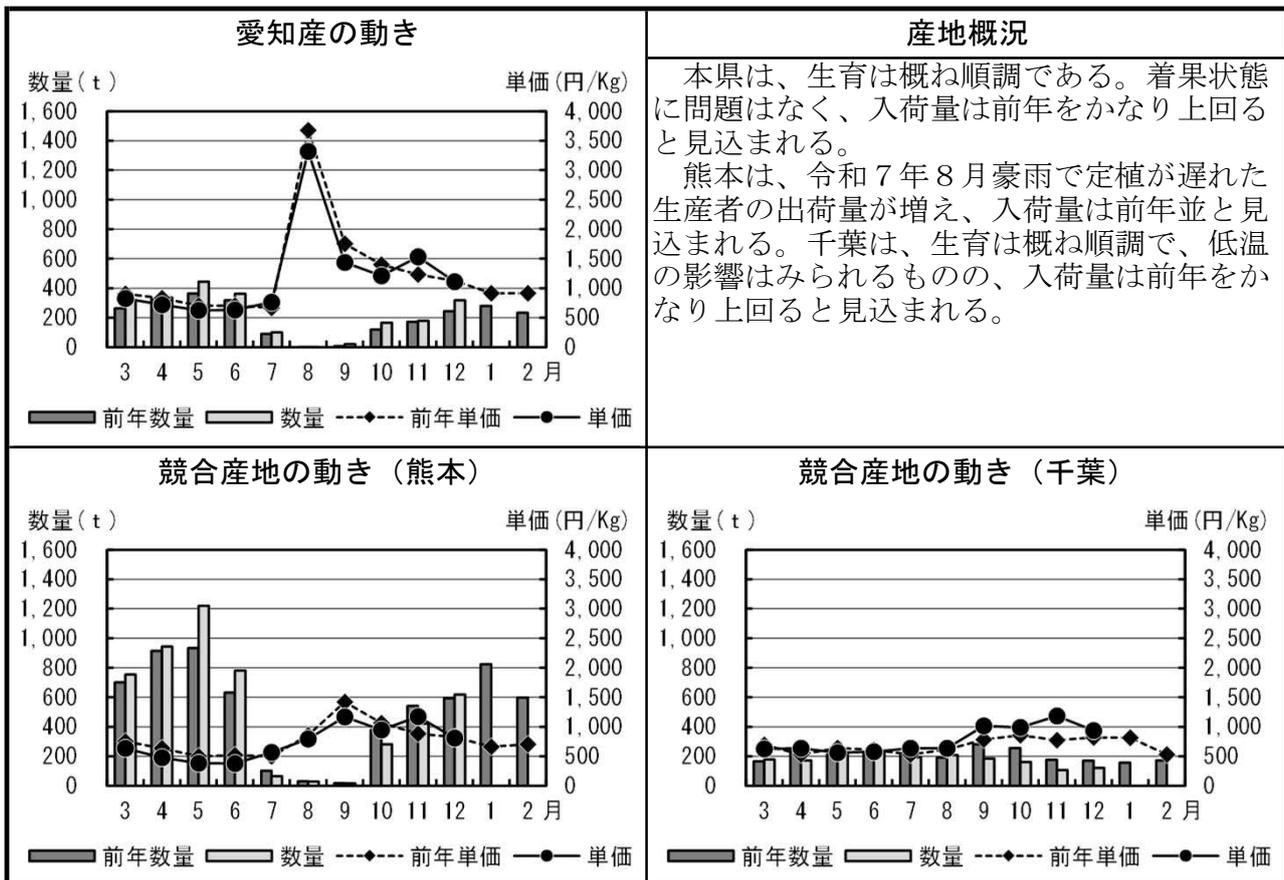
品目名 ミニトマト

前年上位3産地 (%)

熊本 43%

愛知 17%

千葉 12%



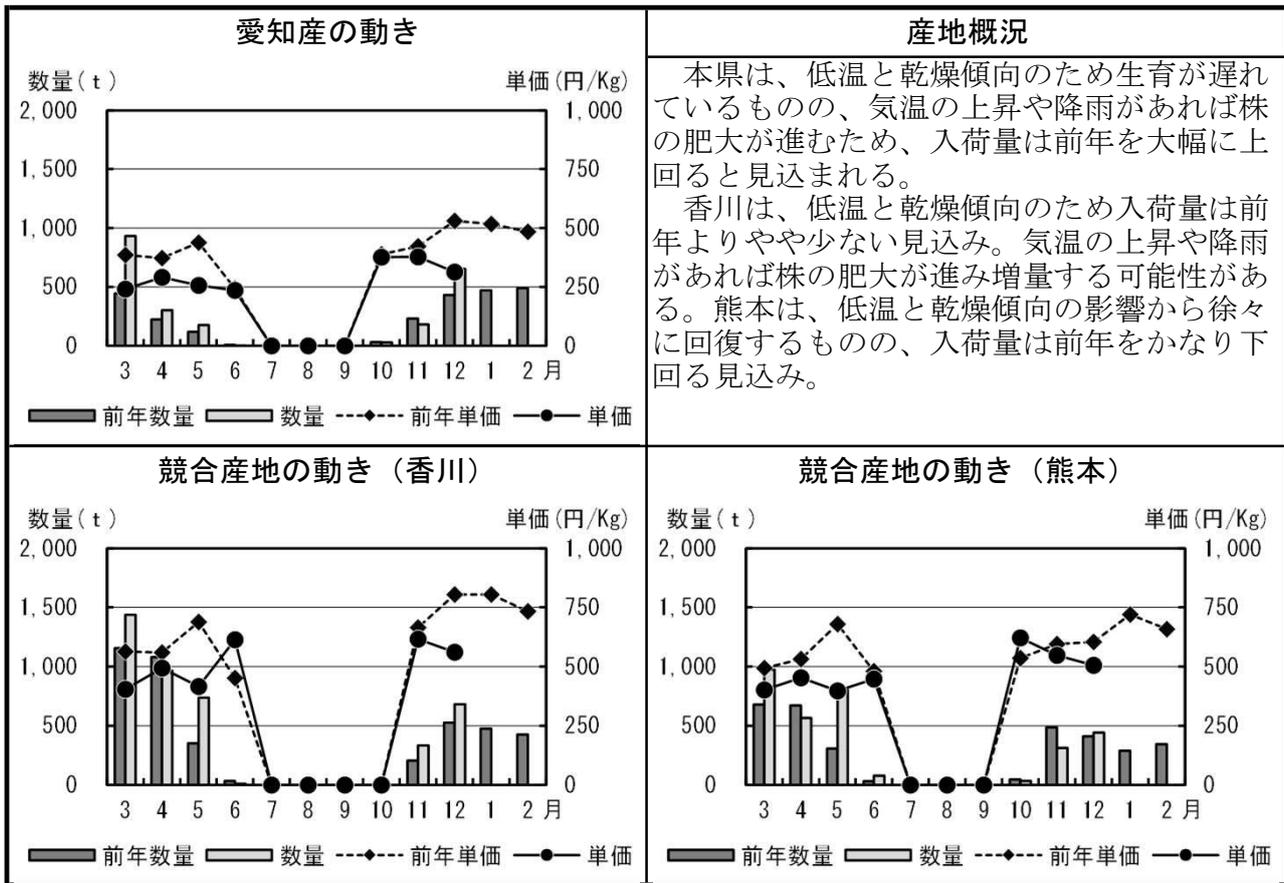
品目名 ブロッコリー

前年上位3産地 (%)

愛知 24%

香川 21%

熊本 17%

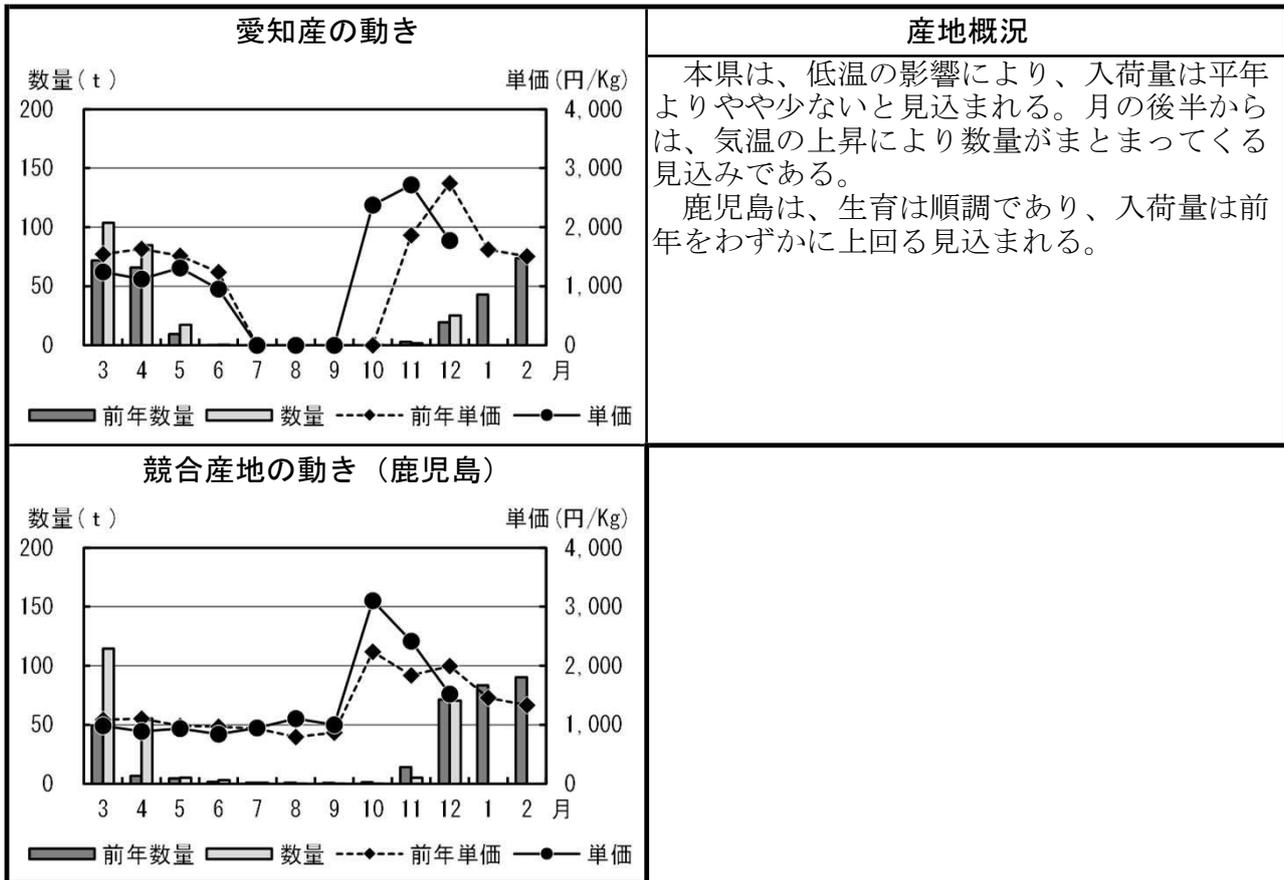


品目名 さやえんどう

前年の上位産地 (%)

鹿児島 40%

愛知 33%



# 切花・鉢花の2月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 2月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ く	実績	2021年	810	31	
		2022年	1,068	50	
		2023年	856	73	
		2024年	1,215	59	
		2025年	945	73	
	5カ年平均		979	58	
	2026年見通し		950	65	
概要	愛知中心の入荷となる。月を通して入荷量は多くない。一般需要の動きが鈍い分、葬儀需要の動きで価格は大きく変動する場面もある。				
小 ぎ く	実績	2021年	445	34	
		2022年	714	32	
		2023年	592	50	
		2024年	714	32	
		2025年	710	67	
	5カ年平均		635	44	
	2026年見通し		720	60	
概要	沖縄中心の入荷となる。入荷量は増える見込みだが、昨年と比べると寒さの影響で色により開花遅延もあり、色バランスが悪くなる見込み。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2021年	604	35	
		2022年	795	44	
		2023年	544	111	
		2024年	795	44	
		2025年	776	56	
	5カ年平均		703	55	
	2026年見通し		770	55	
概要	愛知中心の入荷となる。輸入品は大きく増える要素がなく、国内も寒さの影響から落ち着いた出荷で、前年並の入荷を見込む。				
か す み そ う	実績	2021年	118	52	
		2022年	119	106	
		2023年	158	99	
		2024年	119	106	
		2025年	122	125	
	5カ年平均		127	98	
	2026年見通し		125	115	
概要	和歌山、高知、熊本から入荷となる。1月の入荷量は少なめとなっていたため、気温の上昇と共に数量は増えてくる見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	133	163	
		2022年	191	181	
		2023年	189	218	
		2024年	191	181	
		2025年	149	245	
	5カ年平均	171	197		
2026年見通し	150	220			
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知からの入荷となる。作付は減少しており、入荷量も多くなく、動きの少ない入荷の見込み。LA、鉄砲も同様に少なめの入荷となる見込み。</p>				
洋らん	実績	2021年	161	96	
		2022年	255	115	
		2023年	221	153	
		2024年	254	116	
		2025年	290	138	
	5カ年平均	236	125		
2026年見通し	250	125			
概要	<p>高知、徳島、愛知、鹿児島国産物や輸入品からの入荷となる。コショウランは春節(2/17)の影響で輸入品が若干入荷減の見込み。カトレアの入荷量は横ばいで、遅れ気味の出荷となっており、ピークは3月となる。オンジウムは旧正月の影響で入荷減となり、3月上旬から増加する。デンファレも旧正月の影響でソニア中心に入荷減となる。シンビジウムは国産中心に入荷を見込む。</p>				
ばら	実績	2021年	310	83	
		2022年	485	91	
		2023年	544	111	
		2024年	485	91	
		2025年	538	108	
	5カ年平均	472	98		
2026年見通し	530	100			
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心の入荷となる。輸入物は入荷後に花が十分に水を吸えず状態があまり良くないため数量が少ない。一方、国産は品種により増減はあるものの、前年並の入荷を見込む。フラワーバレンタイン、卒業需要に期待したい。</p>				
枝も	実績	2021年	787	54	
		2022年	1,216	59	
		2023年	1,225	65	
		2024年	1,215	59	
		2025年	1,084	64	
	5カ年平均	1,105	61		
2026年見通し	1,100	62			
概要	<p>旧正月向けの輸入が増える時期となる。ミモザの出荷は1月下旬から始まり、出荷は前進化している。卒業式等の需要も高まり、花束需要に期待したい。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
工 績	実 績	2021年	4, 4 6 3	2 5 5	
		2022年	4, 5 1 5	2 2 2	
		2023年	3, 2 9 9	2 6 1	
		2024年	1, 2 7 1	3 7 3	
		2025年	6, 0 4 7	1 3 6	
	5ヵ年平均		3, 9 1 9	2 1 9	
	2026年見通し		4, 0 0 0	1 3 0	
カ	概要	<p>前年の猛暑の影響で作柄が悪く、生産量が減少傾向にあることから、数量は期待できず、入荷量は前年より減少する見込み。                      サイズは小鉢の3～3.5号が中心で、年越しをした古株を仕立て直した4.5～6号も僅かだが生産がある。相場としては厳冬期になるため、弱含みとなる見込み。                      前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（39.1%）、2位新潟（30.7%）、3位静岡（20.8%）となっている。</p>			
プ 績	実 績	2021年	1 9 8, 0 1 3	1 0 9	
		2022年	1 9 3, 8 8 2	8 4	
		2023年	1 5 6, 6 0 3	1 1 6	
		2024年	1 4 2, 8 5 2	1 2 1	
		2025年	1 3 7, 0 7 1	1 1 8	
	5ヵ年平均		1 6 5, 6 8 4	1 0 8	
	2026年見通し		1 3 5, 0 0 0	1 2 0	
ラ	概要	<p>生産量の減少に加え、前年の猛暑の影響により苗の段階で生育不良が多く見られるため、入荷量は前年並か、やや減少する見込み。                      昨夏の猛暑の影響で、花色によっては大幅なロスが発生しているものもあり、通常はMIXで出荷される商品について、例年と比較して色目に偏りが出る可能性がある。                      前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（32.3%）、2位埼玉（14.2%）、3位栃木（7.6%）となっている。</p>			
チ ュ ー リ ャ 概要	実 績	2021年	3 0, 5 4 5	1 9 8	
		2022年	3 3, 7 7 4	1 8 2	
		2023年	3 2, 6 6 0	1 9 3	
		2024年	3 4, 2 5 9	1 8 6	
		2025年	2 9, 5 1 0	1 9 4	
	5ヵ年平均		3 2, 1 5 0	1 9 1	
	2026年見通し		2 8, 0 0 0	1 9 4	
概要	<p>輸入球根の仕入れ値が前年より上昇しているため、生産者の仕入れの減少が要因となり、入荷量は前年同様に減少を見込む。                      4号が中心の出荷となり、次いで5号、3号となる見込み。単価は、入荷量の減少により、相対取引での販売が増える可能性があり、前年並の単価になると見込まれる。                      前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（45.0%）、2位埼玉（24.5%）、3位奈良（14.0%）となっている。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	2021年	49,629	292	
		2022年	41,473	257	
		2023年	27,872	325	
		2024年	37,819	321	
		2025年	26,359	337	
	5ヵ年平均	36,630	301		
	2026年見通し	25,000	330		
概要	<p>2月の需要の落ち込みに合わせて生産が減少する一方で、装飾需要が高まる2月下旬から3月初めに合わせた生産体系のため、入荷量は前年より減少を見込む。                  2月の相場は前年並となる見込み。                  前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位香川(32.8%)、2位埼玉(25.3%)、3位千葉(9.2%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	2021年	51,479	208	
		2022年	44,105	212	
		2023年	41,277	225	
		2024年	49,885	233	
		2025年	46,895	239	
	5ヵ年平均	46,728	223		
	2026年見通し	45,000	238		
概要	<p>暖房費等の高騰で出荷が後ろ倒しとなり、入荷量は前年より減少する見込み。                  入荷の中心は、3.5号および4～5号となる。単価は、前年より厳しくなる可能性があるものの、卒業・卒園等需要が高まる2月下旬から3月上旬頃までは、相場は前年並となる見込み。                  前年2月の主要県の集荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(29.3%)、2位岐阜(16.4%)、3位静岡(12.8%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	2021年	15,034	718	
		2022年	16,678	641	
		2023年	15,621	693	
		2024年	14,519	691	
		2025年	12,102	676	
	5ヵ年平均	14,791	683		
	2026年見通し	11,000	664		
概要	<p>入荷量は生産量の減少に伴い、前年より減少する見込み。                  3号～4号は比較的スムーズな取引が期待されるが、5号～6号は軟調な相場での取引となる見込み。                  前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(49.7%)、2位高知(19.5%)、3位岡山(18.0%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.630  
2026年2月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434